

FUJITSU Desktop ESPRIMO

B6FY-5121-01 Z0



Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール リモート操作ガイド

ESPRIMO Edge Computing Edition


FUJITSU

本書をお読みになる前に



安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

■本書の記号

本書に記載されている記号には、次のような意味があります。

 重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。

■連続する操作の表記方法

本書中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例:「スタート」ボタンから「設定」をクリックし、「アプリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「設定」→「アプリ」の順にクリックします。

■画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■用語説明

本書で使用する用語を次に説明します。

用語	意味
管理者端末	運用管理ツールを操作するための端末
マスター端末	Windows Update を最初に適用する端末

商標および著作権

Microsoft、Windows、Windows Server、.NET Framework は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、本ソフトウェア説明書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。また、本製品に含まれている Microsoft(R) .NET Framework の著作権は、Microsoft Corporation が有しています。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2020

目次

本書をお読みになる前に.....	2
安全にお使いいただくために.....	2
本書の表記.....	2
商標および著作権.....	2
第 1 章 リモート操作機能(遠隔操作).....	5
1.1 リモート操作機能とは.....	6
1.1.1 モニタリング機能.....	7
1.1.2 遠隔操作機能.....	8
1.1.3 電源制御機能.....	9
1.1.4 ファイルコピー機能.....	10
1.1.5 コマンド実行機能.....	11
1.1.6 ウィンドウ位置の自動補正機能.....	12
第 2 章 基本操作.....	13
2.1 起動方法.....	14
2.1.1 基本的な操作.....	14
2.2 グループ選択画面の使用方法.....	16
2.2.1 グループ／端末選択内容の保存.....	16
2.2.2 保存した選択内容の削除.....	17
2.3 操作モード.....	18
2.4 画面説明.....	19
2.4.1 複数 PC 操作の場合.....	19
2.4.2 単一 PC 操作の場合.....	23
2.5 操作対象の端末の選択.....	26
2.5.1 操作対象の端末の選択.....	26

第 3 章	利用方法	27
3.1	端末を遠隔操作する	28
3.1.1	モニタリング／遠隔操作	28
3.1.2	個別遠隔操作モード	30
3.1.3	画面サイズの変更	31
3.1.4	対象画面(ディスプレイ)の選択(単一 PC 操作のみ)	31
3.2	端末の電源 ON/電源 OFF/スタンバイ/再起動をする	32
3.3	端末に特殊キー操作をするには	33
3.4	端末でコマンドを一斉に実行する	34
3.5	端末のウィンドウの位置やサイズを揃える	35
3.6	端末にファイルをコピーする	36
3.7	ログオンしているアカウントの一覧情報を確認する	38
3.7.1	クライアント詳細一覧の表示	38
3.7.2	CSV ファイルの出力	38
3.8	リモート画面操作機能のその他の機能	39
3.8.1	ユーザ設定	39
付録 1	リモート画面操作機能の制限事項・留意事項	45
付録 2	遠隔操作異常時の回復操作	47

第1章 リモート操作機能(遠隔操作)

1.1 リモート操作機能とは

「リモート操作機能」は、管理者端末(運用管理ツール 管理コンソール機能をインストールした端末)から端末(運用管理ツール クライアント機能をインストールしたマスター端末、エッジコンピューティングデバイス)の画面を、遠隔操作する機能です。

「リモート操作機能」には、次の機能があります。

機能	機能説明
モニタリング	管理者端末から端末の画面を見ることができます。 ⇒詳しくは「1.1.1 モニタリング機能」をお読みください。
遠隔操作	管理者端末から端末の画面を操作することができます。 ⇒詳しくは「1.1.2 遠隔操作機能」をお読みください。
電源制御	管理者端末から端末の電源を制御(電源 ON/電源 OFF/スタンバイ/再起動)できます。 ⇒詳しくは「1.1.3 電源制御機能」をお読みください。
ファイルコピー	管理者端末にあるファイルやフォルダを端末に転送できます。 ⇒詳しくは「1.1.4 ファイルコピー機能」をお読みください。
コマンド実行	端末で任意のコマンドを実行できます。 ⇒詳しくは「1.1.5 コマンド実行機能」をお読みください。
ウィンドウ位置の自動補正	端末の画面に表示されているウィンドウの位置やサイズを補正(ウィンドウの位置やサイズの変更)できます。 ⇒詳しくは「1.1.6 ウィンドウ位置の自動補正機能」をお読みください。

重要

リモート画面操作機能は、ネットワークや端末の性能に影響されます。導入される環境をご確認の上ご利用ください。推奨構成については、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』の「付録 E 動作環境」をご覧ください。

また、一斉操作においては、各端末との操作の同期処理、データ通信などにより、通常の操作感より遅くなりますのでご注意ください(遠隔操作中はキーボード入力、マウス操作は、ゆっくりと操作してください)。

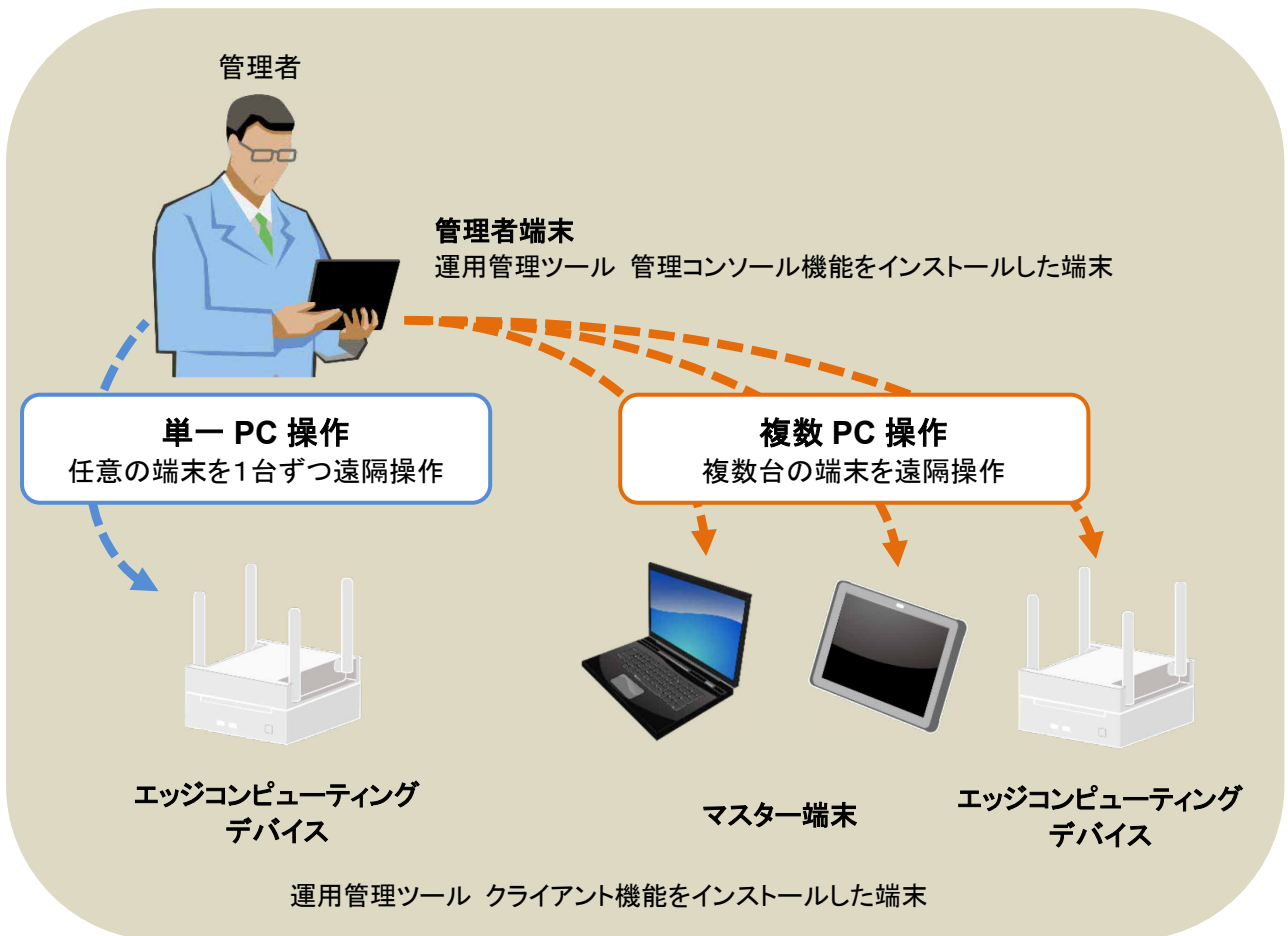
1.1.1 モニタリング機能

管理者端末に端末(マスター端末やエッジコンピューティングデバイス)の画面を表示することができます。



1.1.2 遠隔操作機能

管理者端末から端末(マスター端末やエッジコンピューティングデバイス)を遠隔操作できます。



1.1.3 電源制御機能

管理者端末から端末(マスター端末やエッジコンピューティングデバイス)の電源を制御(電源 ON/電源 OFF/スタンバイ/再起動)できます。



1.1.4 ファイルコピー機能

管理者端末のリモート操作画面上にファイルやフォルダをドラッグ&ドロップすることで、複数の端末に一斉にコピーできます。コピー先には、デスクトップやドキュメント等、任意のフォルダを指定できます。



1.1.5 コマンド実行機能

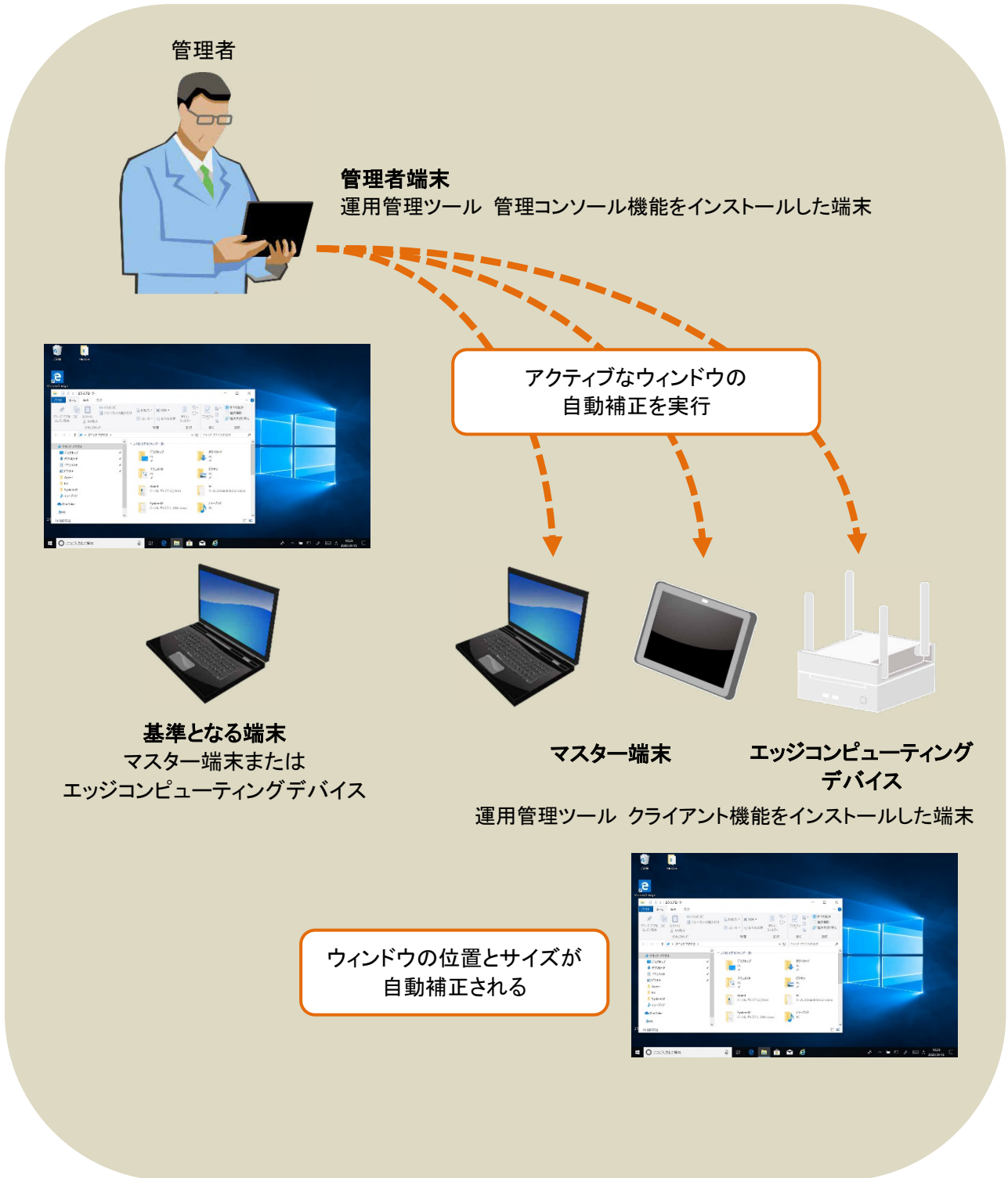
管理者端末から端末(マスター端末やエッジコンピューティングデバイス)に対して、任意のコマンドを一斉に実行できます。例えば、複数台の端末で、任意のアプリケーションを一斉に起動させることが可能です。

す。



1.1.6 ウィンドウ位置の自動補正機能

任意の端末の画面に表示されているアクティブなウィンドウを基準にして、他の端末に対して一斉にウィンドウの位置とサイズを自動補正する(同じウィンドウの位置とサイズに合わせる)ことができます。各端末上のウィンドウが同じ位置に揃えられるので、マウスによる遠隔操作が容易になります。



第2章 基本操作

2.1 起動方法

管理者端末からリモート画面操作機能を起動する方法について説明します。

リモート画面操作機能には次の2つがあります。

分類	機能説明
複数 PC 操作	複数台の端末を一齐に遠隔操作する場合に使用します。 操作したい端末を、登録済みのグループ/クライアント一覧から選択します。
単一 PC 操作	1台の端末を操作したい場合に使用します。 操作したい端末を直接指定します。

2.1.1 基本的な操作

POINT

操作対象となるグループ/端末は、運用管理ツールで管理されている端末です。そのため、リモート画面操作機能を利用する場合は、あらかじめ運用管理ツール 管理コンソール機能で登録・管理が必要です。なお、運用管理ツール 管理コンソール機能からリモート画面操作を起動する場合は、「機器管理」の「リモート画面操作」タブにある「複数PC操作」や「単一PC操作」をクリックするか、コンテキストメニューから選択します。

重要

運用管理ツール クライアント機能がインストールされていない端末は、遠隔操作できません。また、自分自身を操作対象端末として指定することはできません。

■ 複数 PC 操作の場合

1. 「スタート」ボタン→「運用管理ツール」→「運用管理ツール リモート画面操作 複数PC操作」の順にクリックします。
2. 初回起動時のみ、接続先サーバ(コンピュータ名とポート番号)を指定します。
3. リモート画面操作機能を利用するためのアカウント名とパスワードを入力します。
初期設定は、運用管理ツールをインストールする際に設定した管理者用アカウント(admin)とパスワードです。
4. 操作対象とするグループを選択します。
「複数 PC 操作」コンソールが起動します。

POINT

グループに属する下位階層のグループや端末の中から、操作対象をさらに絞り込むことができます。また、選択したグループおよび端末を、次回に再呼び出しできるように、選択内容を保存することができます。

詳細については「2.2 グループ選択画面の使用方法」をご覧ください。

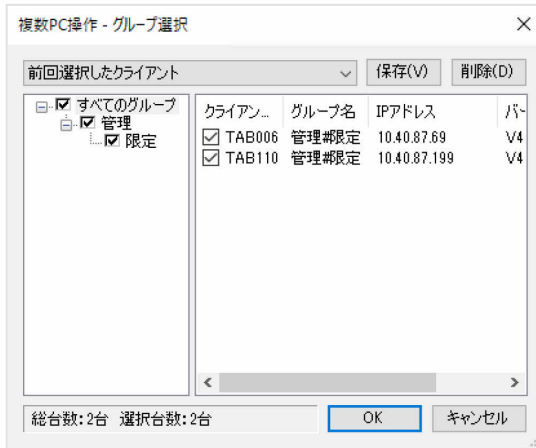
■ 単一 PC 操作の場合

1. 「スタート」ボタン→「運用管理ツール」→「運用管理ツール リモート画面操作 単一 PC 操作」の順にクリックします。
2. 初回起動時のみ、接続先サーバ(コンピュータ名とポート番号)を指定します。
3. リモート画面操作機能を利用するためのアカウント名とパスワードを入力します。
初期設定は、運用管理ツールをインストールする際に設定した管理者用アカウント (admin)とパスワードです。
4. 操作対象とするコンピュータ名または IP アドレスを指定します。
「単一 PC 操作」コンソールが起動します。

2.2 グループ選択画面の使用法

複数 PC 操作のグループ選択画面の使用法について説明します。

グループ選択画面では、操作対象とするグループ／端末の選択内容を保存し、再呼び出しすることができます。



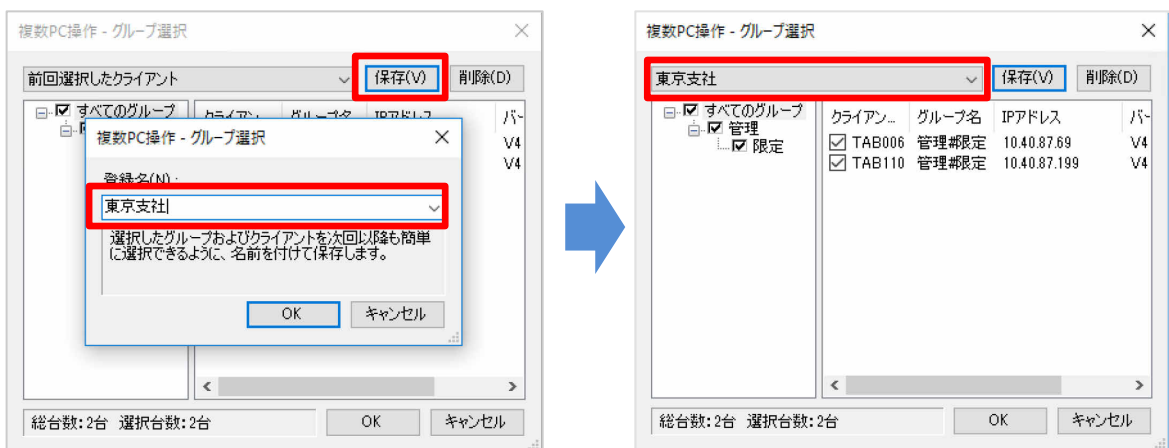
画面上のグループや端末のチェックボックスを ON にすることで、操作対象が決まります。

複数 PC 操作の初回起動時以降は、「グループ選択」画面に前回の選択内容が表示されます。

2.2.1 グループ／端末選択内容の保存

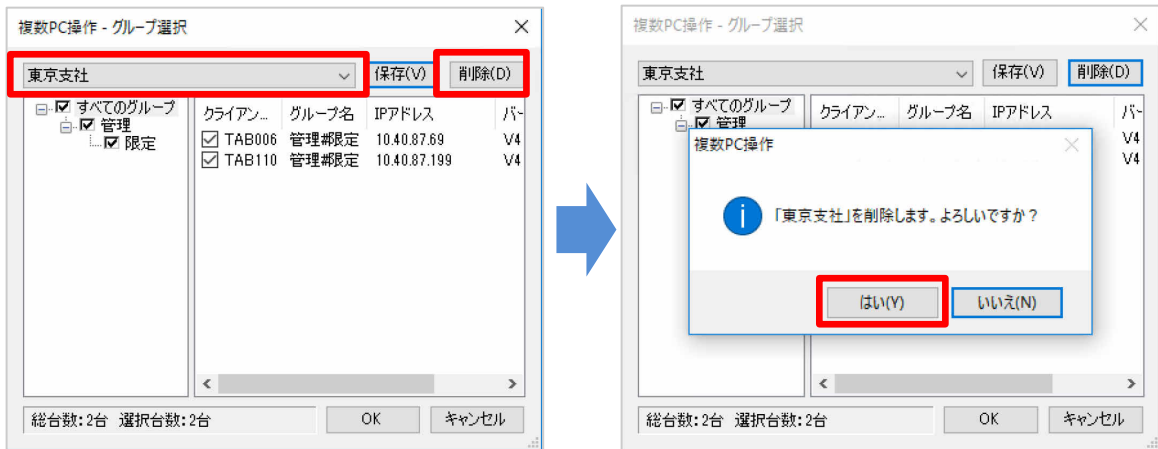
グループ／端末の選択内容を保存したい場合は、対象とするグループまたは端末のチェックボックスを ON にし、「保存」をクリックしてください。その後、登録名を入力し、「OK」をクリックすると保存されます。

保存後は、候補リストに登録名が追加されます。候補リストから登録名を選択することで、保存時のグループ／端末の選択内容を再表示できます。



2.2.2 保存した選択内容の削除

保存した選択内容を削除したい場合は、候補リストから削除したい登録名を選択し、「削除」をクリックします。確認のダイアログで「はい」をクリックすると、削除されます。



POINT 候補リストのうち、「前回選択したクライアント」は削除できません。

2.3 操作モード

リモート操作機能には、「モニタリング」と「遠隔操作」の2つのモードがあります。

複数 PC 操作、単一 PC 操作ともに、起動直後は「モニタリング」の状態になります。

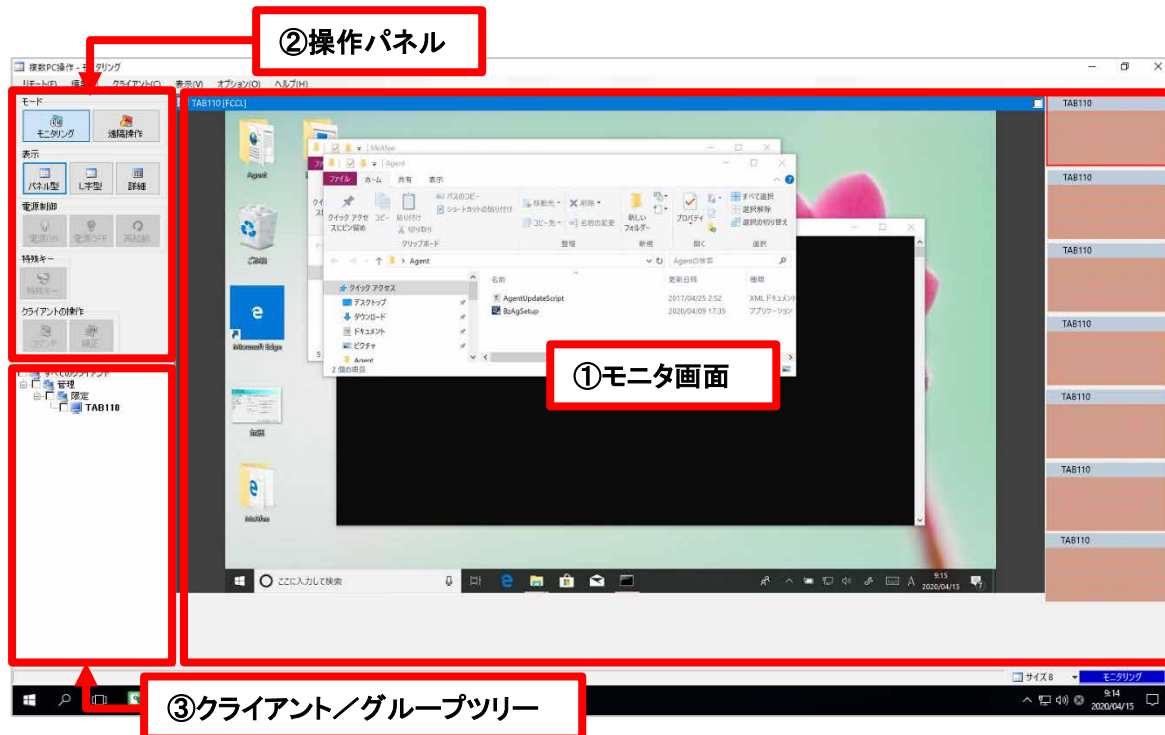
操作モード	機能
モニタリング	<ul style="list-style-type: none">・対象の端末をモニタリングできます。・キーボード入力やマウス操作などの遠隔操作はできません。
遠隔操作	<ul style="list-style-type: none">・対象の端末をモニタリングできます。・キーボー入力やマウス操作など、画面を見ながら遠隔操作できます。





2.4 画面説明

2.4.1 複数 PC 操作の場合

メイン画面

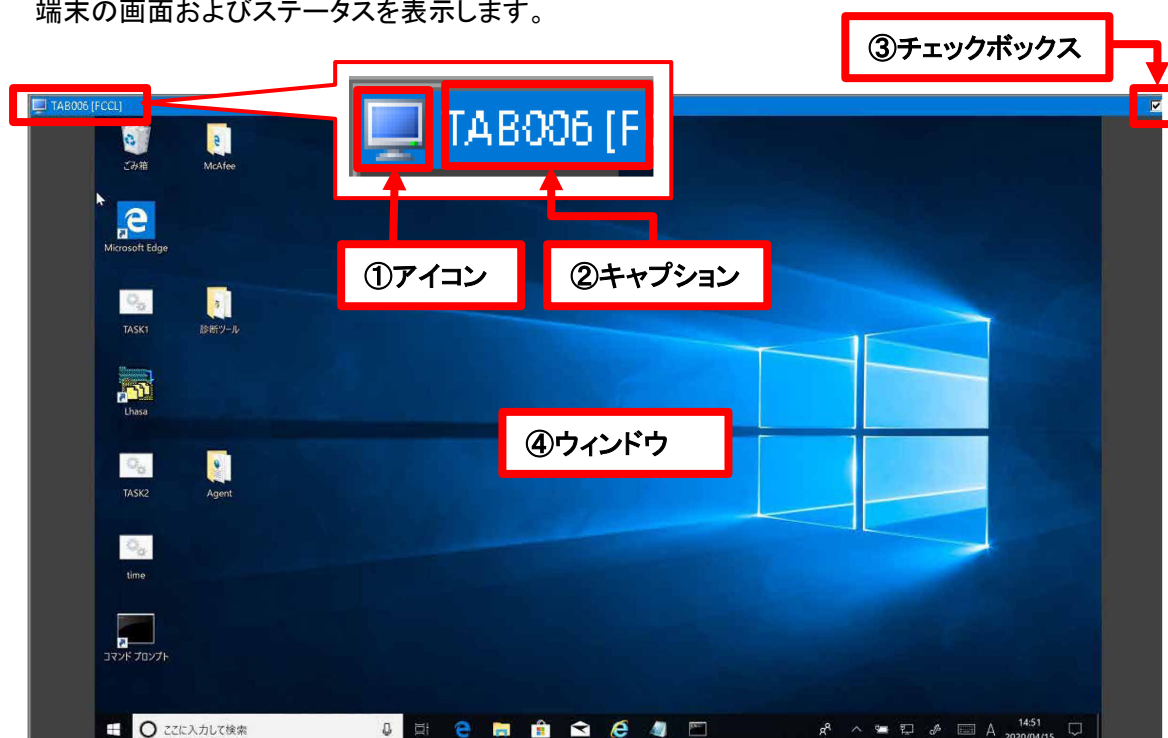
複数 PC 操作は大きく分けて「モニタ画面」「操作パネル」「クライアント／グループツリー」の3つの要素で構成されています。



構成要素	説明			
①モニタ画面	対象の端末の画面(モニタウインドウ)を表示します。 表示方法は、次の3通りから選択できます。			
	パネル型表示	対象の端末の画面を格子状に表示します。		
	L字型表示	対象の端末の画面を1台だけ大きく表示し、それ以外は周りに表示します。遠隔操作時は、自動的にL字型表示に切り替わります。		
	詳細表示	対象の端末を別ウインドウに一覧形式で表示します。		
②操作パネル	基本的な機能をボタン操作で呼び出します。 操作パネルの機能はメニューバーの「クライアント」メニューや右クリック時に表示されるコンテキストメニューからも呼び出せます。			
③クライアント／グループツリー	対象の端末およびグループのツリーを表示します。ツリーから操作したい端末を選択します。また、端末の状態がアイコンで表示されます。			
		「モニタリング」モード		未接続
		「遠隔操作」モード		下位バージョンの運用管理ツール クライアント機能の場合 (「旧」の文字が付きま)

モニタウィンドウ画面

端末の画面およびステータスを表示します。



構成要素	説明
①アイコン	端末の状態を表示します。
②キャプション	端末のコンピュータ名が表示されます。ログオンしている場合はユーザー名またはアカウント名が表示されます。 (表示内容は「表示」→「パネルのキャプション」で切り替え可能です)
③チェックボックス	端末が操作対象に選択されているかどうかを表示および設定します。 チェックボックスが ON の場合は操作対象に選択されています。
④ウィンドウ	端末の画面を表示します。

操作パネル

操作パネルにはリモート画面操作機能を利用する上で使う、主な機能のボタンが配置されています。



(複数 PC 操作時の操作パネル)

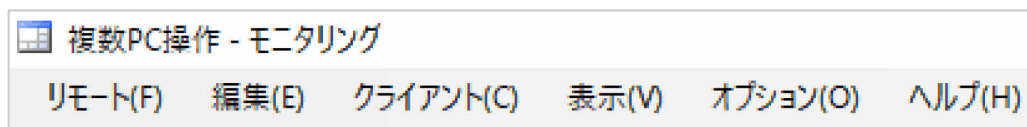
構成要素	説明
①モード	「個別遠隔操作」モードに切り替えることができます。
②表示	モニタ画面の「表示」モードを切り替えます。
③電源制御	対象の端末に対して「電源ON」「電源OFF」「再起動」を実行します。
④特殊キー	対象の端末に対して「Ctrl + Alt + Del」および「Windows キー + L」の特殊なキー操作を実行します。
⑤クライアントの操作	対象の端末に対して「コマンド実行」「自動補正」を実行します。

POINT

操作パネルは表示／非表示の切り替えが可能です。
非表示にすることでモニタ画面を広く使えます。

メニューバー

メニューバーにはコンソールの設定や操作パネルと同じ機能が配置されています。



① ② ③ ④ ⑤ ⑥

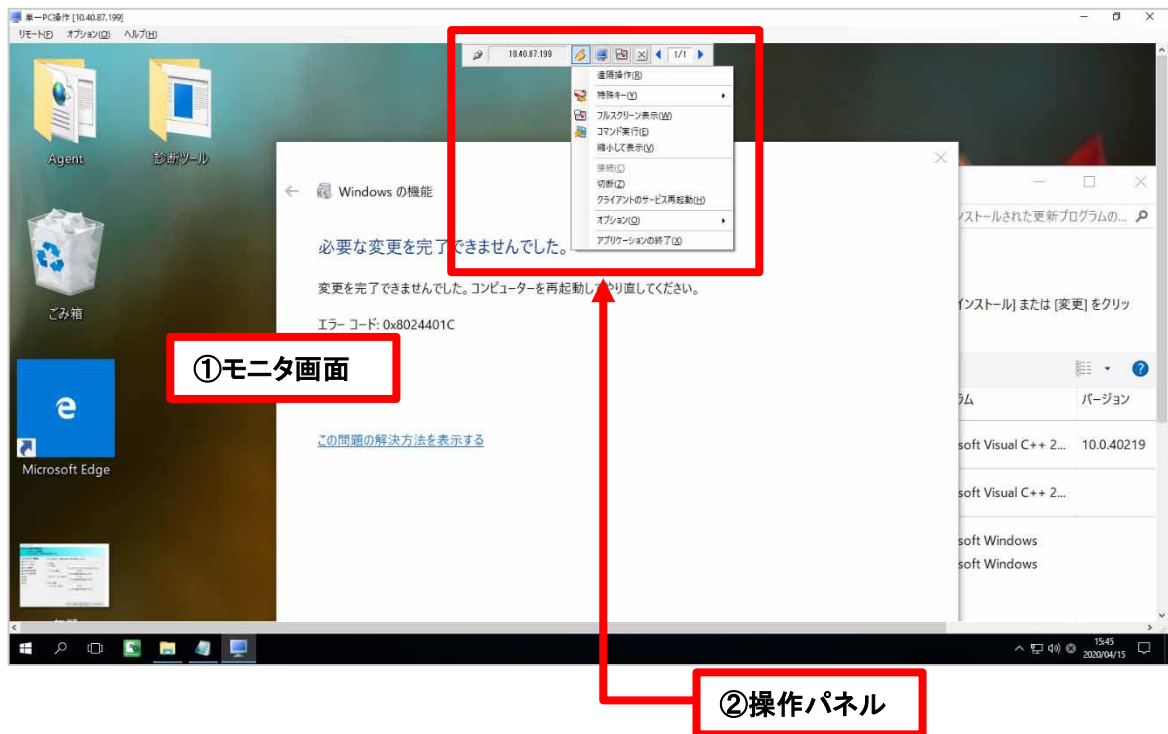
メニューバー(複数 PC 操作)

メニュー分類	サブメニュー	説明
①リモート	モニタリング	「モニタリング」モードに切り替えることができます。
	遠隔操作	「個別遠隔操作」モードに切り替えることができます。
	グループの再選択	現在選択しているクライアント／グループを変更します。
	アプリケーションの終了	複数 PC 操作を終了します。
②編集	すべて選択	クライアント／グループをすべて選択した状態にします。
	すべて選択解除	クライアント／グループをすべて選択解除した状態にします。
③クライアント	電源制御	「電源 ON」「電源 OFF」「スタンバイ」「再起動」「ログオン」「ログオフ」を実行します。
	特殊キー	対象の端末に「Ctrl + Alt + Del」や「Windows キー + L」のキー操作を送信します。
	フルスクリーンで操作	対象の端末1台をフルスクリーンで表示します。
	コマンド実行	対象の端末で任意のコマンドを実行します。
	ウインドウ位置の補正	任意の端末の画面を基準にしてアクティブなウインドウの位置やサイズを一斉に自動補正します。
④表示	パネル型表示	モニタ画面を「パネル型表示」で表示します。
	L字型表示	モニタ画面を「L字型表示」で表示します。
	詳細表示	端末の詳細情報を一覧表示します。
	操作パネルの表示	「操作パネル」の表示／非表示を切り替えます。
	パネルのキャプション	モニタウインドウのキャプションを切り替えます。
	デフォルト表示	端末のコンピュータ名と、ログオンしている場合はユーザー名またはアカウント名を表示します。
	PC 名	端末のコンピュータ名を表示します。
	IP アドレス	端末の IP アドレスを表示します。
	ログオンユーザーID	端末にログオンしているユーザー名またはアカウント名を表示します。
	ログオンユーザー名	端末にログオンしているユーザーのフルネームを表示します。
PC 名／IP アドレス	端末のコンピュータ名と IP アドレスを表示します。	
⑤オプション	ユーザ設定	ユーザ設定画面を表示します。
	個別遠隔操作	「個別遠隔操作」モードを有効にします。
⑥ヘルプ	バージョン情報	リモート画面操作機能のバージョンを表示します。

2.4.2 単一 PC 操作の場合

メイン画面

単一 PC 操作は「モニタ画面」と「操作パネル」の2つの要素で構成されています。



構成要素	説明	
①モニタ画面	対象の端末の画面を表示します。 「フルスクリーン表示」と「ウィンドウ表示」の2つの表示方法があります。	
	フルスクリーン表示	対象の端末の画面をデスクトップ全体に表示します。
	ウィンドウ表示	対象の端末の画面をデスクトップ内の任意位置・サイズで表示します。
②操作パネル	基本的な機能をボタン操作で呼び出します。 「ドッキング形式」と「フローティング形式」の2つの表示方法が可能です。	
	ドッキング形式	モニタウィンドウ内の上端中央に固定配置され、使わない時は自動的に隠すことができます。 ピンボタンをクリックすることで、自動的に隠れなくすることもできます。また、表示位置は左寄せ、中央、右寄せのいずれかに切り替えられます。
	フローティング形式	対象の端末の画面をデスクトップ内の任意位置・サイズで表示します。

操作パネル

操作パネルにはリモート画面操作機能を利用する上で使う主な機能が配置されています。



ボタン分類	サブメニュー	機能説明		
①操作 ボタン	特殊キー	対象の端末に「Ctrl + Alt + Del」や「Windows キー + L」のキー操作を送信します。		
	フルスクリーン表示 ／ウィンドウ表示	単一 PC 操作の表示方法(フルスクリーン表示／ウィンドウ表示)を切り替えます。		
	コマンド実行	対象の端末に任意のコマンドを実行します。		
	等倍で表示／ 縮小して表示	単一 PC 操作で表示される端末の画面サイズを切り替えます。「等倍で表示」は、端末の画面サイズそのままに表示します。「縮小して表示」は、単一 PC 操作のウィンドウサイズに収まるように端末の画面サイズを縮小して表示します。		
	接続	対象の端末に接続します。		
	切断	対象の端末との接続を切断します。		
	クライアントのサー ビス再起動	端末からの応答がなくなった場合に、端末のリモート画面操作常駐サービスを強制的に再起動するための回復作用メニューです。 (本操作の詳細については、『付録 2 遠隔操作異常時の回復操作』を参照してください)		
	オプション	ユーザ設定	動作設定画面を表示します。	
		操作パネルのド ッキング	操作パネルのウィンドウ表示形式(ドッキング形式／フローティング形式)を切り替えます。	
アプリケーションの 終了	単一 PC 操作を終了します。			
②操作モード切り替えボタン	「モニタリング」モードと「遠隔操作」モードを切り替えます。			
③表示切り替えボタン	単一 PC 操作の表示方法(フルスクリーン表示／ウィンドウ表示)を切り替えます。			
④終了ボタン	単一 PC 操作を終了します。			
⑤対象画面切り替えボタン	端末がマルチディスプレイの場合に、対象の画面を切り替えます。			

POINT

操作パネルは表示／非表示の切り替えが可能です。ただし、フルスクリーン表示の場合、操作パネルは常に表示されます。

メニューバー

単一 PC 操作を「ウィンドウ表示」にした場合、操作パネルからメニューバーに切り替わります。



メニュー分類	サブメニュー	機能説明
①リモート	モニタリング／遠隔操作	操作モード(「モニタリング」モード／「遠隔操作」モード)を切り替えます。
	特殊キー	対象の端末に「Ctrl + Alt + Del」や「Windows キー + L」のキー操作を送信します。
	フルスクリーン表示／ウィンドウ表示	単一 PC 操作の表示方法(フルスクリーン表示／ウィンドウ表示)を切り替えます。
	コマンド実行	対象の端末で任意のコマンドを実行します。
	等倍で表示／縮小して表示	単一 PC 操作で表示される端末の画面サイズを切り替えます。「等倍で表示」は、端末の画面サイズそのままに表示します。「縮小して表示」は、単一 PC 操作のウィンドウサイズに収まるように端末の画面サイズを縮小して表示します。
	接続	対象の端末に接続します。
	切断	対象の端末との接続を切断します。
	クライアントのサービス再起動	端末からの応答がなくなった場合に、端末のリモート画面操作常駐サービスを強制的に再起動するための回復操作メニューです。本操作の詳細については、「付録 3 遠隔操作異常時の回復操作」をご覧ください。
	アプリケーションの終了	単一 PC 操作を終了します。
②オプション	操作パネルのドッキング	有効(チェック ON)にすると、操作パネルが画面上端中央にドッキング表示された状態になります。無効(チェック OFF)にすると、操作パネルはフローティングウィンドウ表示になります。
	操作パネルを常に表示	有効(チェック ON)にすると、常に操作パネルが表示された状態になります。無効(チェック OFF)にすると、操作パネルが非表示になります。
③ヘルプ	バージョン情報	リモート画面操作機能のバージョンを表示します。

2.5 操作対象の端末の選択

2.5.1 操作対象の端末の選択

操作対象の端末を選択するには、次のいずれかの操作を行います。

■ クライアント／グループツリーのチェックボックスを ON にする

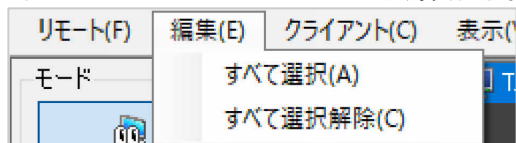
端末のチェックボックスを「ON」にすると、その端末が操作対象となります。また、グループのチェックボックスを「ON」にすると、グループ配下のすべての端末が操作対象となります。



■ メニューバーから「編集」→「すべて選択」をクリックする

メニューバーから「編集」→「すべて選択」の順にクリックすると、ツリーに表示されているすべての端末のチェックボックスが ON になり、操作対象となります。

また、メニューバーの「編集」→「すべて選択解除」をクリックすると、ツリーに表示されているすべての端末のチェックボックスが OFF になり、操作対象から外れます。



■ モニタウィンドウの右上のチェックボックスを ON にする

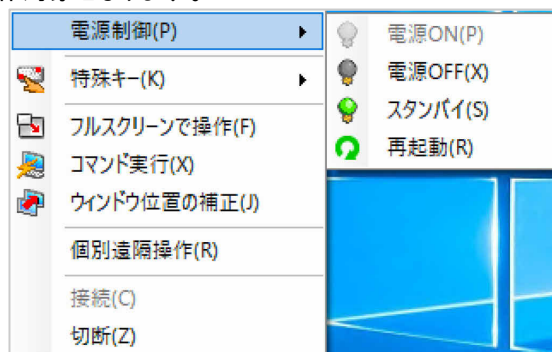
モニタウィンドウの右上のチェックボックスを ON にすると、その端末が操作対象となります。

クライアント／グループツリーのチェックボックスとも連動しています。



■ モニタウィンドウ上で右クリックメニューから実行する

モニタウィンドウ上で右クリックすると表示されるメニューから実行した場合は、その端末 1 台だけが操作対象となります。



第3章 使用方法

本章では、リモート画面操作機能の各機能を利用する際の操作方法や注意事項・制限事項について説明します。

3.1 端末を遠隔操作する

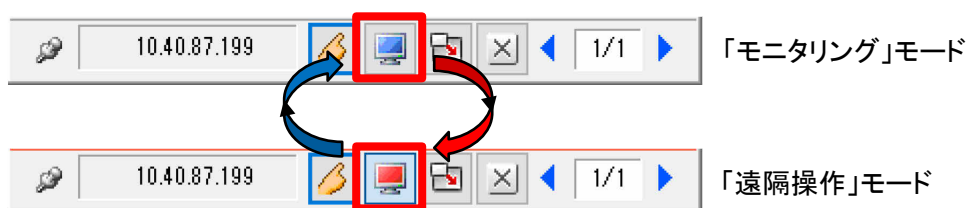
3.1.1 モニタリング／遠隔操作

「個別遠隔操作」モードは、複数台の端末の中から1台の端末だけに対して操作を行いたい場合の特別な操作モードです。

操作モードの選択

■単一 PC 操作の場合

操作パネルの「操作モード切り替え」ボタンをクリックして、操作モードを選択します。メニューバーの「リモート」から「モニタリング」または「遠隔操作」をクリックして切り替えることもできます。



■複数 PC 操作の場合

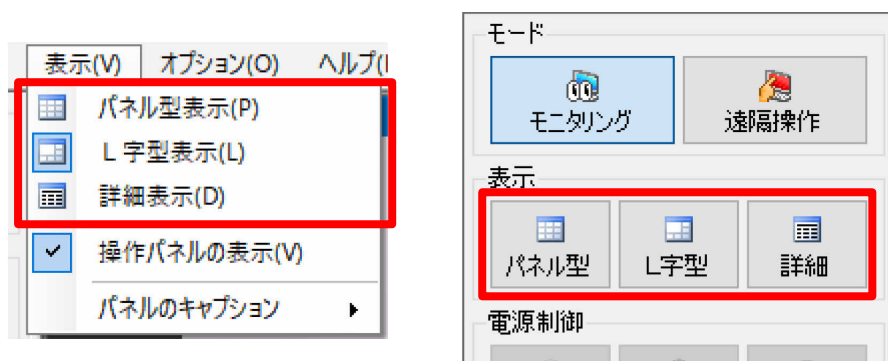
操作パネルの「モニタリング」または「遠隔操作」をクリックして、操作モードを選択します。メニューバーの「リモート」から「モニタリング」または「遠隔操作」をクリックして切り替えることもできます。

複数 PC 操作の場合は、「遠隔操作」をもう一度押すことで、「個別遠隔操作」モードになります。

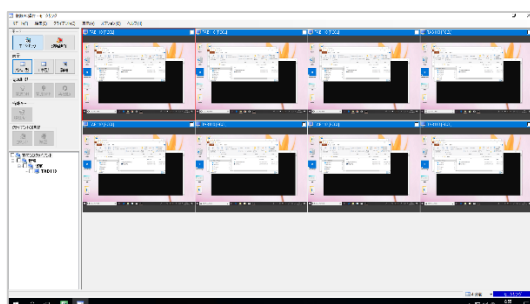


表示方法の選択

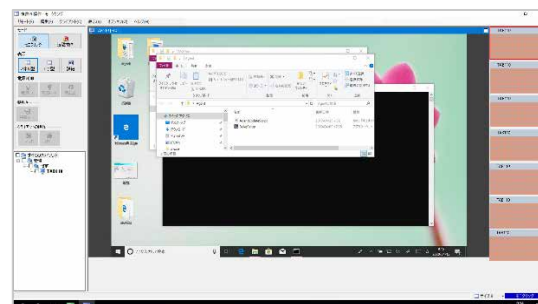
メニューバーの「表示」または操作パネルから表示方法を選択します。操作モードによって選択可能な表示方法が異なります。



操作モード	説明
モニタリング	すべての表示モードを選択できます。
遠隔操作	「L字型表示」のみ選択できます。 「遠隔操作」モードを選択すると、自動で「L字型表示」に切り替わります。



パネル型表示



L字型表示

遠隔操作の方法

1. 遠隔操作を行う場合、クライアント/グループツリーから操作対象の端末またはグループのチェックボックスを「ON」にします。
2. 「L字型表示」のメインモニタウィンドウ画面をクリックすると、マウスポインタが変わります。
3. この状態でキーボード入力やマウスを操作すると、遠隔操作を行うことができます。

3.1.2 個別遠隔操作モード

「個別遠隔操作」モードは、複数台の端末の中から1台の端末だけに対して操作を行いたい場合の特別な操作モードです。

「個別遠隔操作」モードの選択

1. 操作パネルの「遠隔操作」をクリックするか、またはメニューバーから「リモート」→「遠隔操作」を再選択することで、「個別遠隔操作」モードになります。
また、メニューバーの「オプション」→「個別遠隔操作」や、クライアント/グループツリー、モニタウインドウでの右クリックメニューからも切り替えられます。



「個別遠隔操作」モードの動作

「個別遠隔操作」モードを有効にすると、次のような動作をします。

- 操作対象はメインモニタウインドウに表示される端末のみとなります。他の端末には、キーボード入力やマウス操作は送信されません。
- クライアント/グループツリーやモニタウインドウのチェックボックスはグレーアウトされ、操作できなくなります。チェックボックスの ON/OFF に関わらず、現在選択している端末にのみ操作パネルから指示やファイルコピーが実行できます。
- クライアント/グループツリーやモニタウインドウの端末をクリックすると、メインモニタウインドウに操作対象が切り替わります。

3.1.3 画面サイズの変更

複数 PC 操作の場合は、ステータスバー上の拡大・縮小ボタンをクリック、またはドロップダウンリストから選択することで、モニタ画面の端末のモニタウィンドウの大きさを変更することができます。

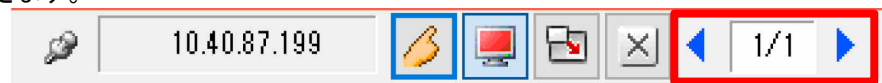
表示モード	説明
パネル型表示の場合	数字を大きくするほど、モニタ画面に表示される端末の台数が多くなりますが、1つのモニタウィンドウのサイズは小さくなります。
L字型表示の場合	数字を大きくするほど、メインモニタウィンドウのサイズが大きくなりますが、その他のモニタウィンドウのサイズは小さくなります。

単一 PC 操作の場合は、モニタリングウィンドウのサイズ(フルスクリーン/ウィンドウ)と表示倍率(等倍/縮小)を選択することができます。

表示サイズ		表示倍率	
		等倍で表示	縮小で表示
フルスクリーン表示	対象の端末の画面をデスクトップ全体に表示します。	端末の画面サイズそのままに表示します。	単一 PC 操作のウィンドウサイズに収まるように端末の画面サイズを縮小して表示します。
ウィンドウ表示	対象の端末の画面をデスクトップ内の任意位置・サイズで表示します。		

3.1.4 対象画面(ディスプレイ)の選択(単一 PC 操作のみ)

単一 PC 操作の場合は、端末がマルチディスプレイの場合に、遠隔操作対象の画面(ディスプレイ)を選択することができます。



操作/表示	説明
◀	遠隔操作対象の画面を1つ戻します。
インジケータ	現在遠隔操作しているディスプレイ番号と総ディスプレイ数を表示しています。
▶	遠隔操作対象の画面を1つ進めます。

重要

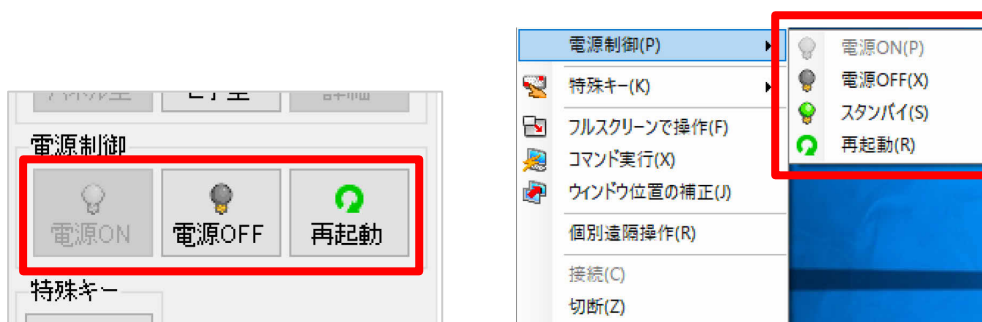
マルチディスプレイ環境を遠隔操作する場合、グラフィックカード構成やドライバによっては、プライマリディスプレイ以外を遠隔操作できない場合があります。また、マウスカーソルが遠隔操作画面上に表示されない場合があります。

ユーザ設定の画面モードの設定を「高速モード」以外に設定することで、本事象を回避できる場合があります。

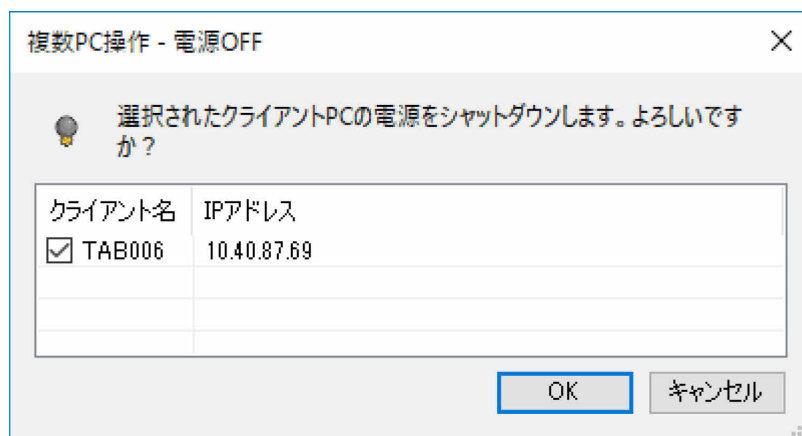
3.2 端末の電源 ON/電源 OFF/スタンバイ/再起動をする

管理者端末から端末に対して、電源 ON/電源 OFF/スタンバイ/再起動を実行する方法を説明します。

1. クライアント/グループツリーから操作対象の端末およびグループから選び、チェックボックスを「ON」にします。
2. 次のいずれかの方法で、動作を指定します。
 - 操作パネルで「電源ON」、「電源OFF」、「再起動」をクリックします。
 - クライアント/グループツリーで右クリックし、表示されたメニューから「電源制御」をクリックし、「電源 ON」、「電源 OFF」、「スタンバイ」または「再起動」をクリックします。
 - メニューバーから「クライアント」→「電源制御」の順にクリックし、さらに「電源 ON」、「電源 OFF」、「スタンバイ」または「再起動」をクリックします。
 - モニタウインドウ上で右クリックし、表示されたメニューから「電源制御」をクリックし、「電源 ON」、「電源 OFF」、「スタンバイ」または「再起動」をクリックします。



3. 操作対象となる端末の一覧が表示されたら、「OK」をクリックします。
電源 ON、電源 OF、スタンバイまたは再起動が実行されます。



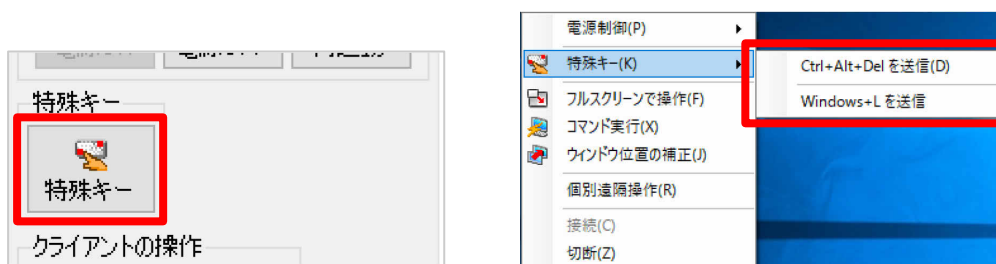
重要

スタンバイ状態の端末は、「電源 ON」で復帰させることができますが、あらかじめ端末のネットワークアダプタの設定を変更しておく必要があります。
ネットワークアダプタのプロパティの電源の管理にて、スタンバイ状態を解除できる設定に変更しておいてください。

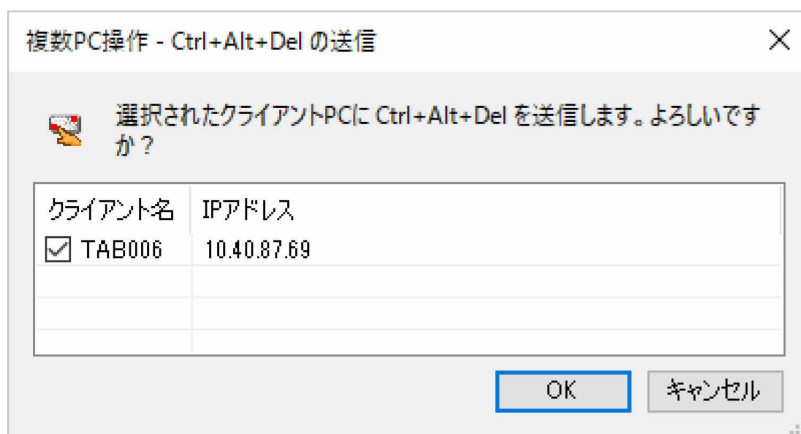
3.3 端末に特殊キー操作をするには

管理者端末から端末に対して、特殊キー操作を実行する方法について説明します。

1. クライアント/グループツリーから操作対象の端末およびグループから選び、チェックボックスを「ON」にします。
2. 次のいずれかの方法で、動作を指定します。
 - 操作パネルで「特殊キー」をクリックし、「Ctrl + Alt + Del を送信」または「Windows + L を送信」をクリックします。
 - クライアント/グループツリーで右クリックし、表示されたメニューから「特殊キー」をクリックし、「Ctrl + Alt + Del を送信」または「Windows + L を送信」をクリックします。
 - メニューバーから「クライアント」→「特殊キー」の順にクリックし、さらに「Ctrl + Alt + Del を送信」または「Windows + L を送信」をクリックします。
 - モニタウィンドウ上で右クリックし、表示されたメニューから「特殊キー」をクリックし、「Ctrl + Alt + Del を送信」または「Windows + L を送信」をクリックします。



3. 操作対象となる端末の一覧が表示されたら、「OK」をクリックします。

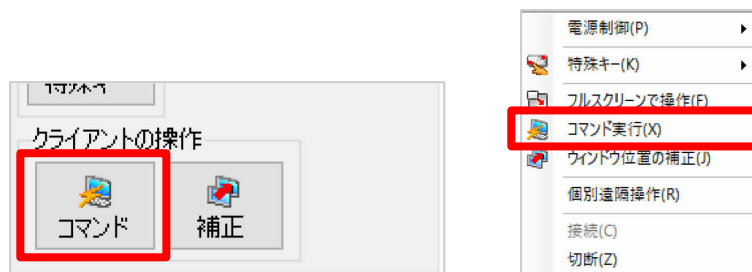


POINT 「Ctrl + Alt + Del」は Windows のセキュリティやタスクマネージャを呼び出すためのキー操作です。また、「Windows + L」は端末をロックするためのキー操作です。

3.4 端末でコマンドを一斉に実行する

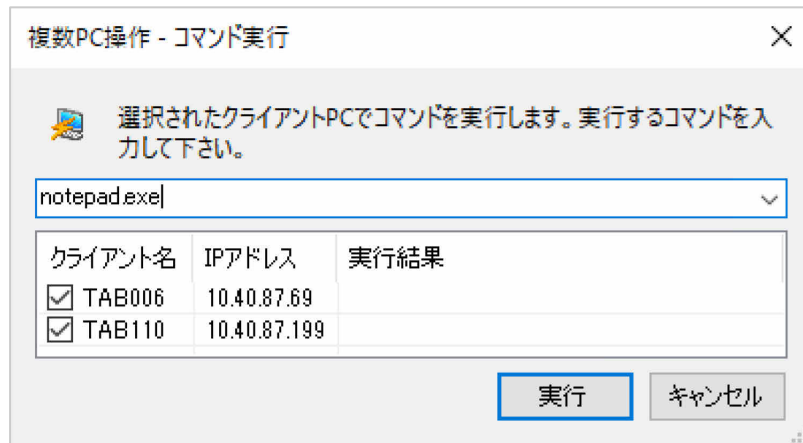
POINT ログオンされている端末に対してのみコマンドを実行できます。なお、コマンドはログオンされているユーザの権限で実行されます。

1. クライアント/グループツリーから操作対象の端末およびグループから選び、チェックボックスを「ON」にします。
2. 次のいずれかの方法で、動作を指定します。
 - 操作パネルで「コマンド」をクリックします。
 - クライアント/グループツリーで右クリックし、表示されたメニューから「コマンド実行」をクリックします。
 - メニューバーから「クライアント」→「コマンド実行」の順にクリックします。
 - モニタウィンドウ上で右クリックし、表示されたメニューから「コマンド実行」をクリックします。



3. 実行するコマンドを入力し、「実行」をクリックすると、対象となる端末でコマンドが実行されます。

以前に実行したコマンドの中から選択することも可能です。



3.5 端末のウィンドウの位置やサイズを揃える

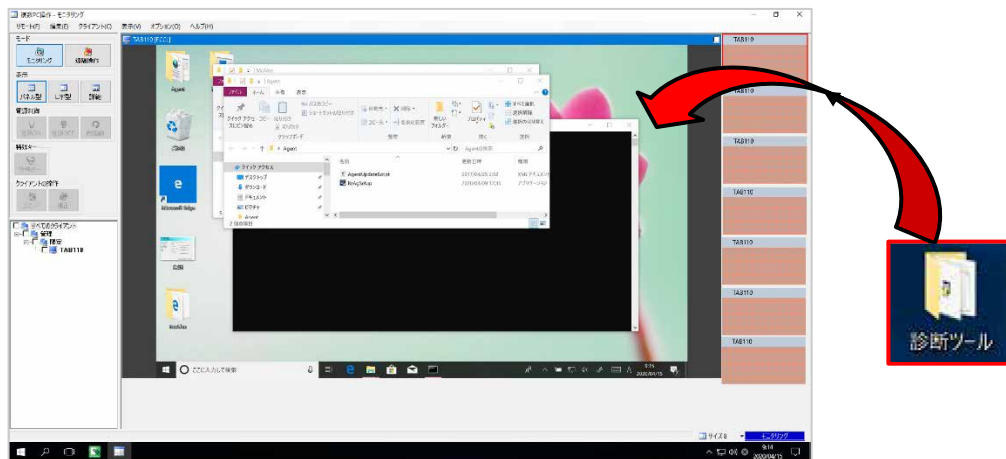
管理者端末から端末に対してアクティブなウィンドウ位置の自動補正を行う方法について説明します。

1. ウィンドウの位置を補正する時に基準となる端末を指定します。
メインモニタウィンドウに表示されている端末が基準になります。別の端末のモニタウィンドウをクリックすると切り替えることができます。
2. クライアント/グループツリーから操作対象の端末およびグループから選び、チェックボックスを「ON」にします。
3. 次のいずれかの方法で、動作を指定します。
 - 操作パネルで「補正」をクリックします。
 - クライアント/グループツリーで右クリックし、表示されたメニューから「ウィンドウ位置の補正」をクリックします。
 - メニューバーから「クライアント」→「ウィンドウ位置の補正」の順にクリックします。

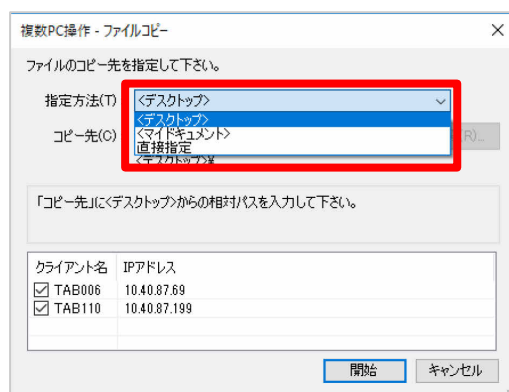


3.6 端末にファイルをコピーする

1. クライアント/グループツリーから操作対象の端末およびグループから選び、チェックボックスを「ON」にします。
コピー開始直前に、対象となる端末をさらに絞り込むこともできます。
2. コピーしたいファイルおよびフォルダを選択し、リモート画面操作管理機能のコンソール上に表示されているメインモニタウィンドウにドラッグ&ドロップします。



3. ファイルコピー先の指定画面が表示されたら、コピー先の指定方法を選択します。次の3つから選択することができます。
 - デスクトップ
ログオンしているユーザの「デスクトップ」にコピーします。
 - マイドキュメント
ログオンしているユーザの「マイドキュメント」フォルダにコピーします。
 - 直接指定
コピー先の端末のパスを直接指定してコピーします。

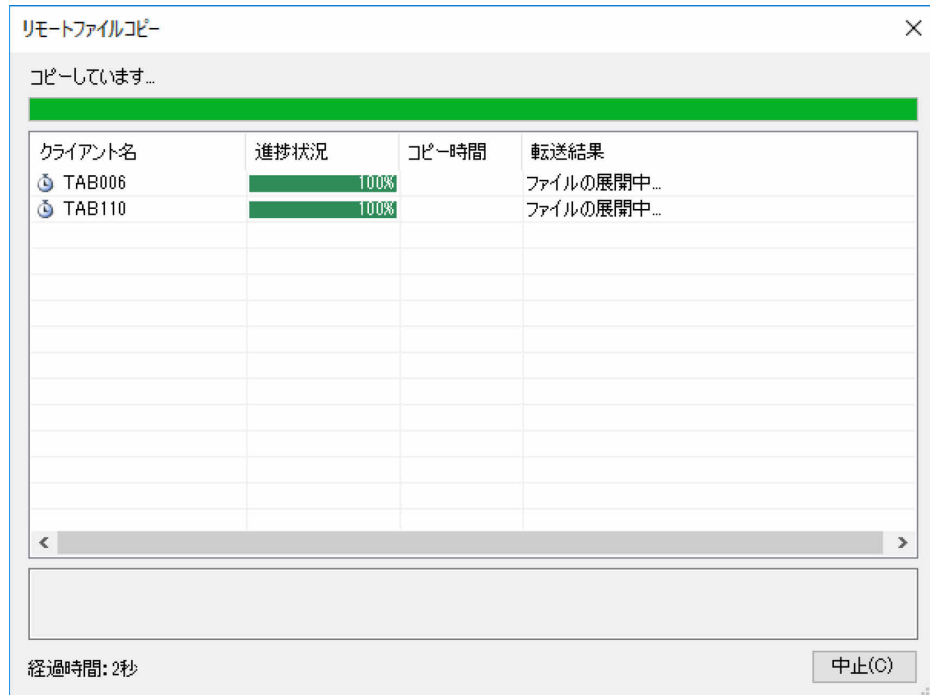


POINT

「デスクトップ」と「マイドキュメント」を選択した場合は、「コピー先」に相対パスを直接入力することができます。「直接指定」を選択した場合は、「参照」をクリックすることで端末のフォルダ構成がツリー表示されますので、コピー先を指定することができます。

なお、対象クライアント一覧上で端末のチェックを外すことにより、必要に応じて端末をさらに絞り込むことができます。

4. ファイルコピー先の指定画面で「開始」をクリックするとファイルコピーが開始されます。進捗状況や結果はダイアログで確認できます。

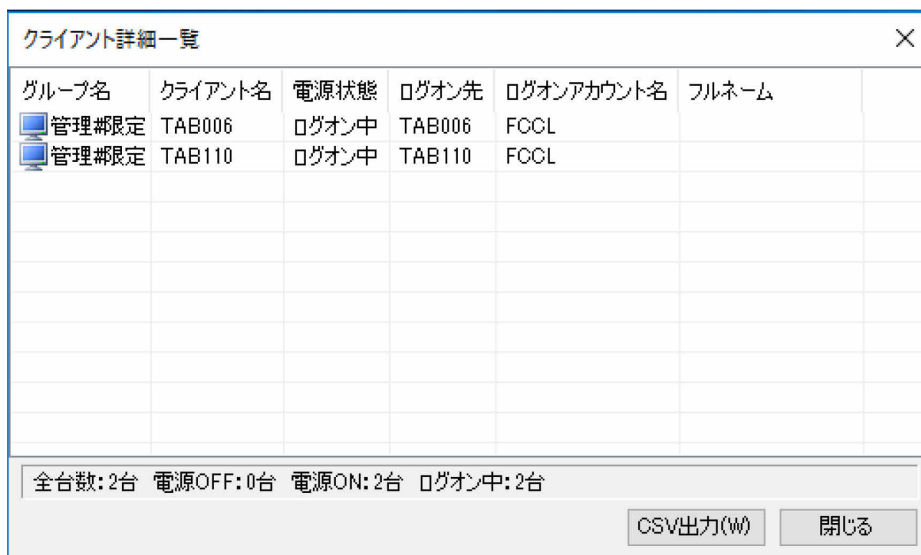


3.7 ログオンしているアカウントの一覧情報を確認する

端末にログオンしているアカウントの一覧を表示する方法を説明します。

3.7.1 クライアント詳細一覧の表示

1. メニューバーから「表示」→「詳細表示」の順にクリックします。
「クライアント詳細一覧」ウィンドウが表示されます。



グループ名	クライアント名	電源状態	ログオン先	ログオンアカウント名	フルネーム
管理#限定	TAB006	ログオン中	TAB006	FCCL	
管理#限定	TAB110	ログオン中	TAB110	FCCL	

全台数: 2台 電源OFF: 0台 電源ON: 2台 ログオン中: 2台

CSV出力(W) 閉じる

クライアント詳細一覧ウィンドウには、操作対象である端末の「グループ名」「コンピュータ名」「電源状態」「ログオン先」「ログオンアカウント名」「フルネーム」が表示されます。

POINT 電源状態において、Windows のログオンパネルが表示された状態は「稼働中」、Windows にログオンした状態は「ログオン中」と表示されます。また、「フルネーム」とは Windows のユーザーアカウントに設定されている「フルネーム」を指しています。

3.7.2 CSV ファイルの出力

クライアント詳細一覧ウィンドウの「CSV 出力」をクリックすると、現在表示されているログオンアカウント一覧の情報を CSV 形式で出力できます。

3.8 リモート画面操作機能のその他の機能

リモート画面操作機能のその他の機能について説明します。

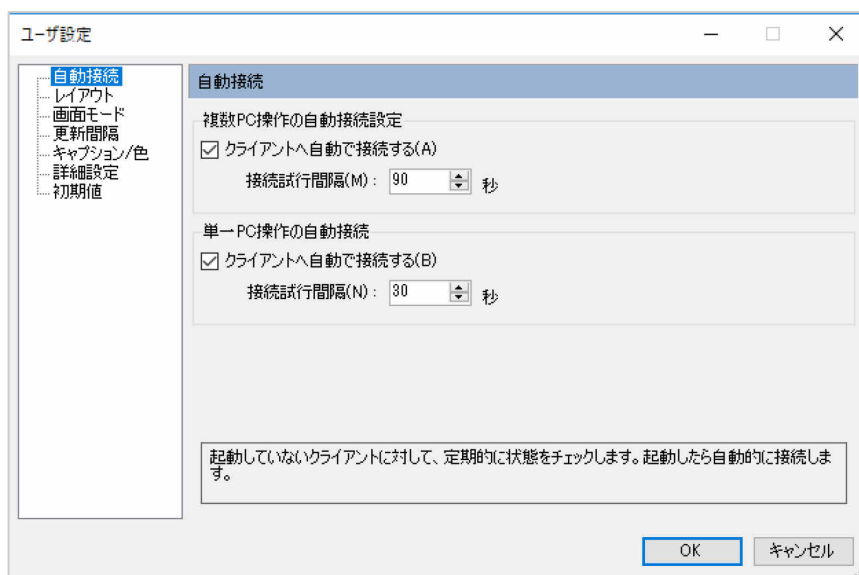
3.8.1 ユーザ設定

メニューバーの「オプション」→「ユーザ設定」から、リモート画面操作機能の動作設定を行うことができます。

自動接続

再起動や電源 OFF などにより端末との通信が切断されてから、再び端末が起動してきた場合、自動接続によりリモート画面制御が再開されます。

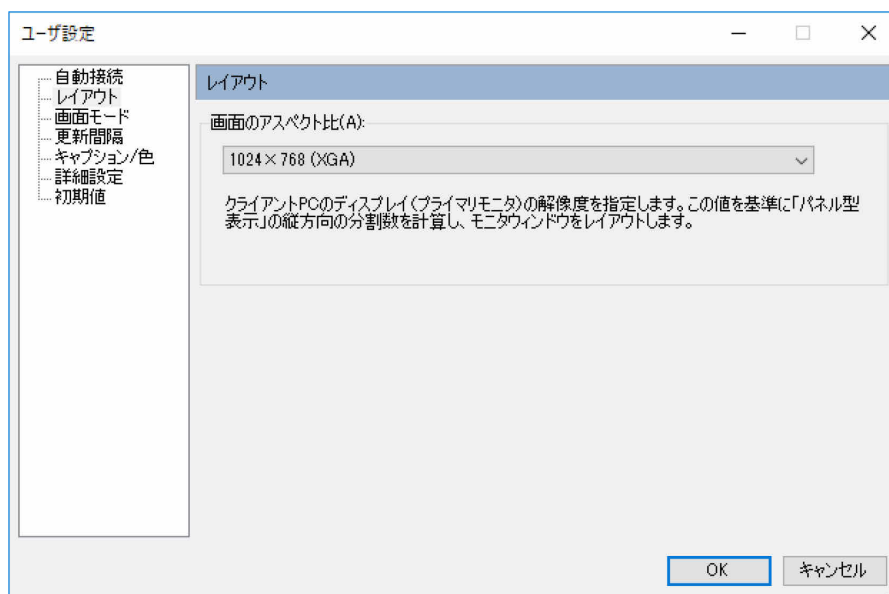
自動接続を有効にする場合は、「クライアントへ自動で接続する」のチェックボックスを ON にし、接続試行間隔(秒)を指定します。



項目	内容
クライアントへ自動で接続する	チェックボックスが ON の場合、自動接続が行われます。
接続試行間隔	自動接続を行う時間の間隔(秒)を指定します。

更新間隔

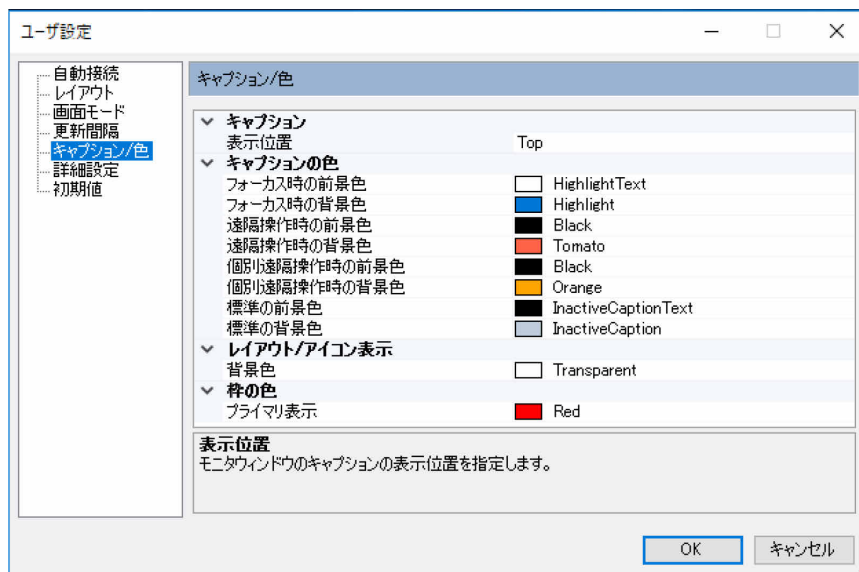
端末の画面を表示するときの、画面描画の更新間隔を選択します。



項目	内容
標準的な設定	標準的な画面更新頻度の設定です。
画面の更新頻度を重視した設定	画面の更新頻度を重視した設定です。 画面描画の表示頻度は向上しますが、操作性が低下します。
PC の操作の快適さを重視した設定	端末の操作性を重視した設定です。 操作性は向上しますが、画面描画の表示頻度は低下します。
カスタム設定	画面更新頻度を自由に設定します。 (※本コンソールからは設定できません。特殊な場合にのみ設定可能です。通常、本項目を使用することはありません。)

キャプション／色

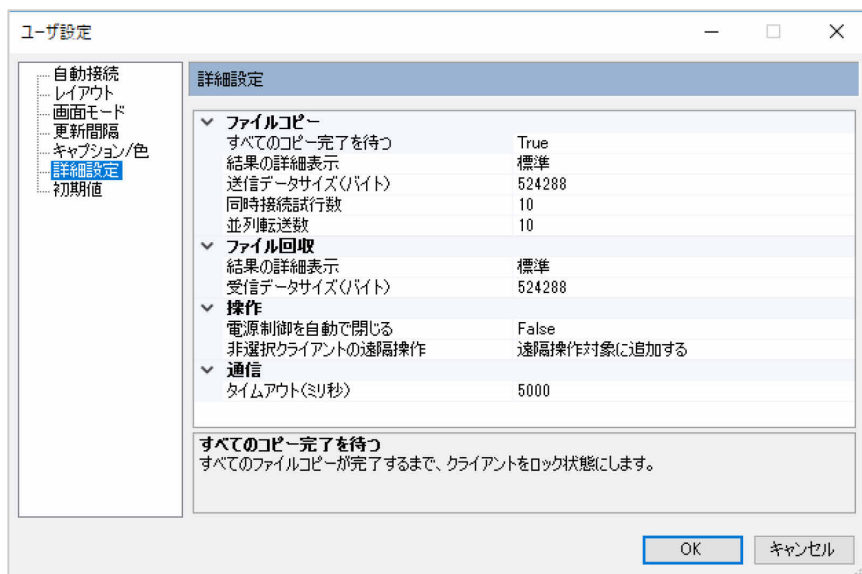
複数PC操作の画面のキャプション(ウィンドウタイトル)の位置や色、アクティブなモニタウィンドウの枠の色を指定します。



項目	内容
キャプション	モニタウィンドウのキャプション(ウィンドウタイトル)の位置を指定します。
キャプションの色	モニタウィンドウのキャプション(ウィンドウタイトル)の色を指定します。
レイアウト／アイコン表示	レイアウト表示やアイコン表示の場合のウィンドウ背景色を指定します。
枠の色	モニタウィンドウにフォーカスが当たっている場合の枠の色を指定します。

詳細設定

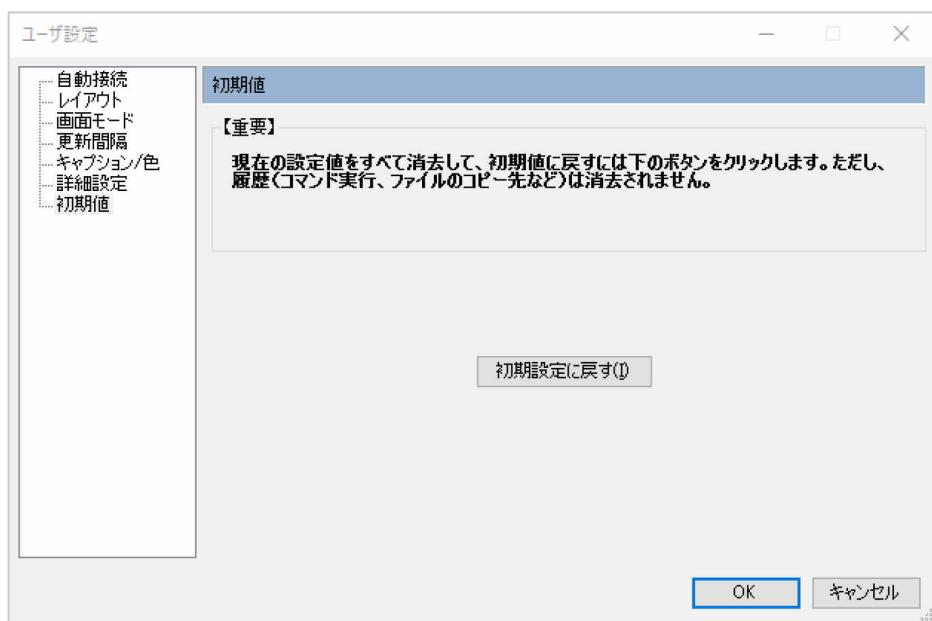
複数 PC 操作や単一 PC 操作の各種機能の詳細設定を行います。



項目		内容
ファイルコピー	すべてのコピー完了を待つ 初期値:「True」	ファイルコピーが完了した場合の端末の状態を指定します。 「True」の場合、すべての端末でコピー処理が完了した時点でブラックアウト状態が解除されます。 「False」の場合、コピー処理が完了した端末から段階的にブラックアウト状態が解除されます。
	結果の詳細表示 初期値:「標準」	ファイルコピーの結果画面の表示内容を指定します。 「詳細」を選択すると、コピー処理にかかった時間のより詳細な情報を表示します。「簡易」にすると時間は表示されません。
	送信データサイズ(バイト) 初期値:「524228」	ファイルコピー時の送信データサイズを指定します。 初期値の 524228 は 512×1024 で設定されています。
	同時接続試行数 初期値:「10」	ファイルコピー時の並列実行端末数を指定します。 値が大きいほど多台数時の所要時間短縮が期待できますが、システム負荷は高くなります。設定可能範囲は 1~10 です。なお、OS 仕様上の同時接続制限を超えないようにしてください。
	並列転送数 初期値:「10」	
操作	電源制御を自動で閉じる 初期値:「False」	電源制御の実行結果のウィンドウの状態を指定します。 「True」はすべての電源制御処理が正常完了した場合、自動でウィンドウが閉じられます。「False」はすべての電源制御処理が正常完了した場合、ウィンドウは表示されたままになります。
	非選択クライアントの遠隔操作 初期値:「遠隔操作対象に追加する」	「遠隔操作」モードでチェックボックスが OFF の端末のモニタウィンドウをクリックした時の動作を指定します。 「遠隔操作対象に追加する」の場合、端末のチェックボックスが ON になり、遠隔操作対象となります。「個別遠隔操作を実行する」の場合、個別遠隔操作モードに移行します。
通信	タイムアウト(ミリ秒) 初期値:「5000」	通信タイムアウトを指定します。 初期値の 5000 ミリ秒は 5 秒となります。

初期値

ユーザ設定で変更した内容を初期設定に戻します。



付録

付録1 リモート画面操作機能の制限事項・留意事項

リモート画面操作機能に関する制限事項および留意事項を説明します。

■ ハードウェアに関する制限事項・留意事項

- リモート画面操作機能は、操作されている端末(マスター端末やエッジコンピューティングデバイス)および操作している端末(管理者端末)の双方に、高い処理能力が要求されます。したがって、運用管理ツールの推奨スペックより高い性能のハードウェアを推奨いたします。詳しい推奨スペック情報は、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』の「付録 E 動作環境」をご覧ください。
- リモート画面操作機能が起動している管理者端末上でキーボードから「Ctrl+Alt+Del」の操作を行うと、リモート画面操作している端末のキーボード操作がロックされた状態(「Ctrl」キーと「Alt」キーが押された状態)になります。リモート画面操作している端末に対して「Ctrl+Alt+Del」を実行する場合は、必ず「特殊キー」操作から実施してください。また、運用管理ツール 管理コンソール機能をインストールした端末上で「Ctrl+Alt+Del」の操作を行う場合は、必ずリモート画面操作機能を終了させた状態で操作してください。
- 特定のキーパターンをトラップしているようなキーボード切り替え機などを接続して、キーボードやマウスが接続されている場合、正常に動作しないことがあります。
- 他社製のキーボードフィルタドライバがシステムにインストールされている場合、正常に動作しないことがあります。
- 次のキーボード操作は遠隔操作およびロックできません。
 - ・SHIFT キーを 5 回押して固定キー機能を有効にする
 - ・SHIFT キーを 8 秒間押し続けてフィルタキー機能を有効にする
- 複数 PC 操作の場合、遠隔操作できる画面(ディスプレイ)は、プライマリディスプレイのみとなります。
- 単一 PC 操作の場合、複数の画面(マルチディスプレイ)を同時に遠隔操作することはできません。また、グラフィックカード構成やドライバによってはプライマリディスプレイ以外の画面が遠隔操作できない場合や、マウスカーソルが表示されない場合があります。
- グラフィックカードの製品(種類)によっては、正常に表示できない、応答が鈍い、CPU 負荷が高くなるなどの現象が発生する場合があります。このような場合、グラフィックカードの設定を変更する(例えば、ハードウェアアクセラレータを無効化するなど)ことで改善する場合があります。

■ ネットワークに関する制限事項・留意事項

- WAN 環境上でのリモート画面操作機能はサポート対象外です。
- 遠隔操作中は、操作されている端末(マスター端末やエッジコンピューティングデバイス)から、操作している端末(管理者端末)へデータが送信され続けます。操作対象の端末が多い場合、または画面転送のインターバル時間が短い場合には、ネットワークに負荷がかかる場合があります。操作されている端末に表示されている画面(特に壁紙)が、多色で複雑な場合にもデータ量は多くなります。

■ OSおよびソフトウェアに関する制限事項・留意事項

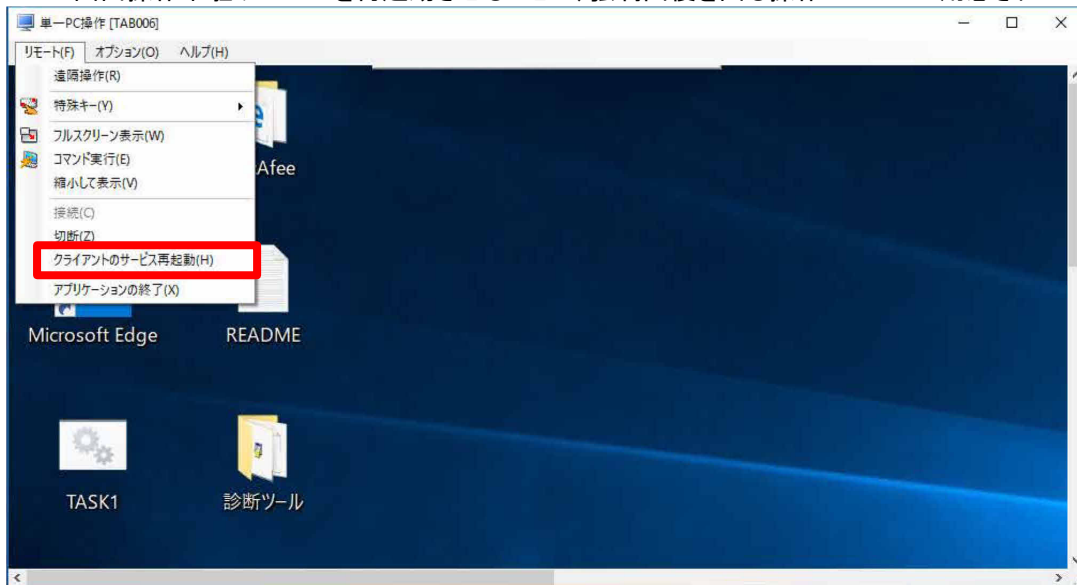
- ユーザの簡易切り替えやターミナルサービスには対応していません。
- 端末が「スタンバイ」あるいは「スリープ」、「休止状態」になった場合は、ネットワークが切断されるため、接続が切断された旨のエラーメッセージが Windows のイベントログに出力されます。
- 一部のアプリケーションには、キーおよびマウス入力が認識されない場合があります。(Microsoft Virtual PCなど)
- 転送対象となる画面表示は、Windows GDI を使用して描画されたものです。GDI 描画以外(DirectX / OpenGL など)を使用したアプリケーションの画面は正常に転送できない場合があります。
- 他社製のリモート操作・モニタリングソフトウェアがインストールされている場合には正常に動作しない場合があります。

■ リモート画面操作機能に関する制限事項・留意事項

- ウィンドウ位置の自動補正機能で、Windows の仕様により補正したウィンドウが端末上でアクティブにならない(最前面に表示されない)場合があります。また、32bitOS が動作している端末を基準に 64bitOS が動作している端末のウィンドウを補正することはできません。
- コマンド実行機能で、Windows の仕様により実行したコマンドのウィンドウが、端末上でアクティブにならない(最前面に表示されない)場合があります。
- ファイルコピー機能で、コピー処理を途中で中断した場合、それまでコピーが完了したファイルは取り消されません。

付録2 遠隔操作異常時の回復操作

「単一 PC 操作」には、遠隔操作中の画面の一部または全体が崩れる場合や、更新されなくなった場合に、端末のリモート画面操作常駐サービスを再起動させることで、強制回復を図る操作メニューが用意されています。



本操作メニューを使用する場合の制限事項・留意事項は次の通りです。

- ネットワーク上到達できない場合やファイヤーウォールなどにより実行指示がブロックされる場合は動作しません。また、標準インストール／通信ポートとは異なる下位のクライアントバージョンに対しては動作しません。
- 本操作後は接続が強制切断されます。本操作を実行した場合は、再接続を行うか、「単一 PC 操作」を再度起動させてください。
本操作後、端末への指示結果がポップアップ表示されますが、端末ではサービス再起動処理が完了するまでに約 30 秒程度必要です。本操作を実行後は、しばらく待ってから再接続を行ってください)

ESPRIMO Edge Computing Edition
Windows Update 運用最適化モデル
運用管理ツール リモート操作ガイド

B6FY-5121-01 Z0-01

発行日: 2020 年 5 月

発行責任: 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。